

報道関係者各位

2007年12月19日

森ビル株式会社

～東京・NY・ロンドン・パリ・上海～ 国際都市アート意識調査

森ビル株式会社(東京都港区 代表取締役社長 森 稔)は、このたび、東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ、上海の5都市にて、アートに対する意識を探るインターネット調査を実施いたしました。

主な調査結果

1. 美術館への来館頻度が最も少ない東京
2. 美術館に行くのは休日が主流だが、平日に行きたい意向が強い
3. 平日に行かない理由、東京ではロケーション、開館時間の問題
4. 各都市で異なる美術館に求めるもの

～東京＝「気分転換」、ニューヨーク＝「非日常的な刺激」、
ロンドン＝「非日常的な刺激」「創作活動におけるヒント」、
パリ＝「教養」、上海＝「心のやすらぎ」「ビジネスにおけるヒント」～

Topic. アート接触意識が圧倒的に高い上海

P2～P3：調査結果詳細

P4：森美術館 南條史生館長による当調査結果への考察

各都市美術館事情(海外大都市の美術館数/主な美術館の開館時間)

<調査概要>

調査対象：東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ、上海の5都市における

18歳以上の学生・社会人1006名(東京206名、他4都市各200名)

調査内容：日常におけるアート意識の高さを美術館との関わりを通じて調査

調査時期：2007年11月

調査方法：インターネット調査

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 野村・森澤

住所：東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー 私書箱1号

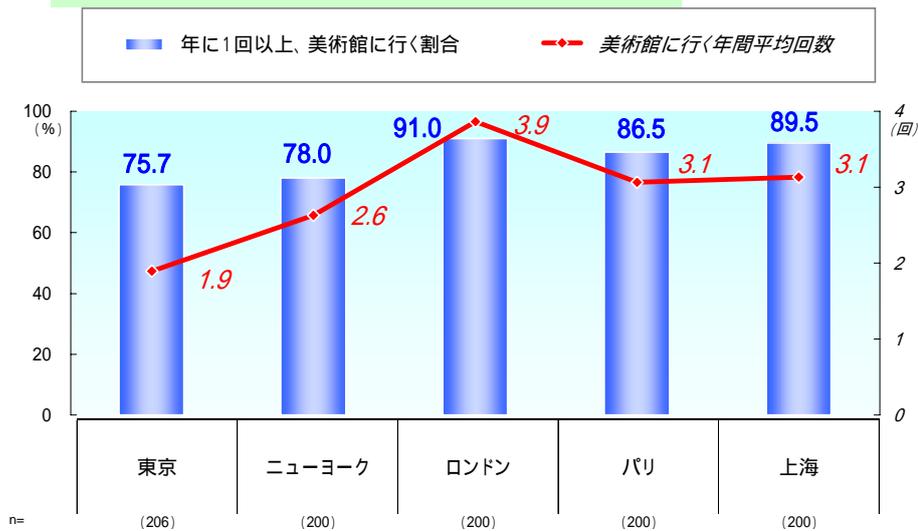
TEL：03-6406-6606 FAX：03-6406-9306 E-mail：koho@mori.co.jp

調査結果の詳細

1. 美術館への来館頻度が最も少ない東京

年に1回以上美術館（ギャラリー含む、以下「美術館」）に行く人の割合は、東京（75.7%）が最も低くなっています。また、美術館に行く年間平均回数は、ロンドンの3.9回/年が最も多く、東京は1.9回/年と5都市中で唯一2回/年を下回り、最も少ない結果となりました。

図1 年に1回以上美術館に行く割合と年間平均回数



2. 美術館に行くのは休日が主流だが、平日に行きたい意向が強い

美術館を訪れる時間帯（平日、休日）を聞いたところ、都市ごとの傾向に大差はなく、全都市合計で平日が43.0%、休日が83.1%（両方行く人も含む）と、やはり休日に行く人が圧倒的に多くみられます。ただし、現在平日に美術館に行かない（行けない）人に、（行けるのであれば）行きたいかと尋ねたところ、全都市合計で約7割（68.5%）の人が「行きたい」と答え、平日の来館意向が全体的に強いことがわかりました。

図2 平日と休日に美術館に行く人の割合

（全都市合計）

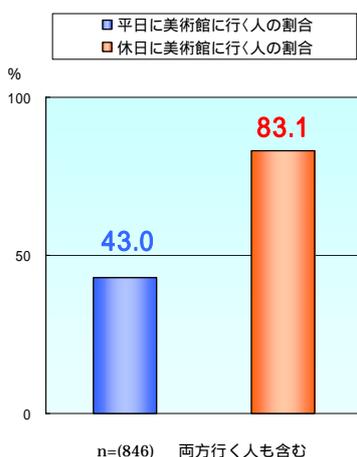
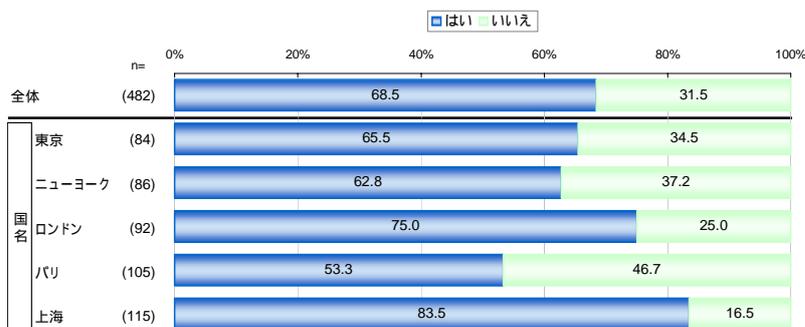


図3 平日に美術館に行きたいと思う人の割合

（年に1回以上美術館に行き、現在休日のみ行っている人の内）

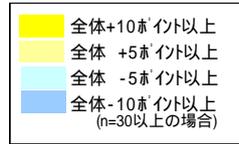


3. 平日に行かない理由、東京ではロケーションと開館時間の問題

平日に美術館に行かない（行けない）理由については、全都市において「仕事／学業が忙しく余裕がないから」との回答が7割から8割と最も大きな理由ですが、都市ごとの傾向を見ると、東京では「職場／学校の近くに美術館がないから」「平日夜遅くまで開館していないから」とする割合が他都市と比較して高い結果となりました。

図4 平日に美術館に行かない・行けない理由（複数回答）

		仕事／学業が忙しく余裕がないから	休日に落ち着いて鑑賞したいから	職場／学校の近くに美術館がないから	平日の夜遅くまで開館していないから	その他
全体 (n=)		73.3	25.5	25.2	20.0	3.6
都市名	東京 (55)	78.2	10.9	36.4	30.9	3.6
	ニューヨーク (54)	74.1	20.4	20.4	16.7	7.4
	ロンドン (69)	79.7	20.3	10.1	13.0	2.9
	パリ (56)	71.4	26.8	17.9	16.1	3.6
	上海 (96)	66.7	39.6	36.5	22.9	2.1



4. 各都市で異なる美術館に求めるもの

「何を求めて美術館に行きますか」との問いに対しては、他都市と比較して、東京＝「気分転換」、ニューヨーク＝「非日常的な刺激」、ロンドン＝「非日常的な刺激」「創作活動におけるヒント」、パリ＝「教養」、上海＝「心のやすらぎ」「ビジネスにおけるヒント」がそれぞれ高い傾向があり、都市ごとに異なる特徴的な回答が得られました。

図5 美術館に求めるもの（複数回答）

		教養	心のやすらぎ	気分転換	非日常的な刺激	創作活動におけるヒント	ビジネスにおけるヒント	購入	その他
全体 (n=)		65.7	61.7	48.9	37.1	22.8	9.6	3.8	3.2
都市名	東京 (156)	50.0	53.8	64.1	37.8	10.9	4.5	1.9	5.1
	ニューヨーク (156)	64.7	57.7	51.3	55.1	26.3	8.3	3.8	3.8
	ロンドン (182)	59.9	67.0	32.4	56.0	38.5	12.6	6.0	2.2
	パリ (173)	83.2	52.0	56.1	27.7	12.7	3.5	1.2	4.0
	上海 (179)	69.3	76.0	43.6	10.6	24.0	17.9	5.6	1.1

Topic. アート接触意識が圧倒的に高い上海

図6 日常生活において「アート」(文化・芸術)に触れていると感じる時があるか

「日常生活でアート(文化・芸術)に触れていると感じる時はあるか」との問いに対し、「ある」と回答した割合は、上海が63.5%と他都市と比較して圧倒的に高い結果となりました。



森美術館 南條史生館長による考察

まず、美術館への来館頻度が最も少ない東京だが、可能であれば平日に来館したいという強い意向がありながら、美術館のロケーションや開館時間などの問題が阻害要因となっていることが調査結果からうかがえる。東京の美術館数は他都市に比べて決して少なくない（参考データ1）。来館希望者のニーズに合わせた運営など、より多くの人々が美術館を訪れる環境づくりが必要だ。

例えば、森美術館は、他都市と比べても異例の夜22時まで開館しているが（参考データ2）、今夏の展覧会（ル・コルビュジエ展）では、平日の夜、特に19時から20時の来館者数が大きく増加した。通常、美術館の来場ピークは14時から16時と言われるなかで、この傾向は来館希望者の潜在的ニーズを掘り起こしている実例と言えるのではないだろうか。

また、東京における美術館運営の課題としては、展覧会の質はもちろん、社会貢献的な視点も大切なポイントだ。例えばニューヨークでは、大型美術館が“街の顔”として存在する。これは、様々な形でメッセージを発し続ける長期的な戦略と活動の結果である。それは広報、宣伝活動だけでなく、美術館が市民のニーズに応え、学校や地域コミュニティ活動を積極的に実施するといった背景がある。東京の美術館では、まだまだ多様な活動と戦略をもって存在しようという努力が足りないのが現状である。

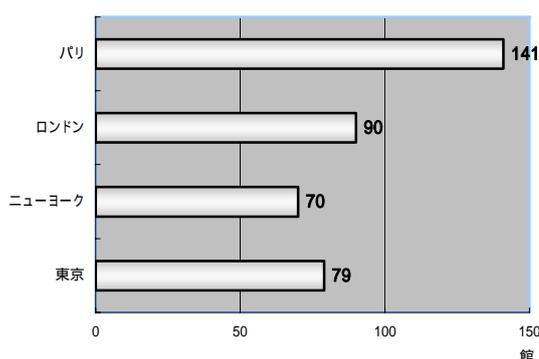
次に、美術館に求めるものについては、各都市毎に差異のある面白い結果となっている。東京が「気分転換」とする一方で、パリは「教養」、ニューヨークやロンドンには「非日常的な刺激」となり、よりポジティブな目的意識を持ち、アートに触れることに積極的な姿勢が読みとれる。東京の人々は少し日常生活に疲れているのかもしれない。

また、上海の「ビジネスにおけるヒント」という回答も興味深い。上海は日頃からアートに触れていると感じる割合も圧倒的に高い。アートを通じて世界を知ることへの期待や好奇心が非常に強く、それをビジネスに生かすというアグレッシブさも持つ、上海の人々のアートに対する旺盛な意識がうかがえる結果となった。日本も、もう一度好奇心を持って、仕事やライフスタイルを築こうという意志が必要だし、それによって、社会が活性化するのではないかと思う。

各都市美術館事情

< 参考データ1：海外大都市の美術館数（概数） >

（2006年 東京都調べより） 上海は該当数字なし



上海の美術館事情

2006年11月8日時点、上海では、市レベルの美術創作や展示場館は4件。区レベルの美術館は5件。それ以外、各区県レベルの書画院15件、展覧館16件。2005年末時点、上海ではオリジナル美術品を経営、展示している画廊や美術品会社は197件。（上海文化広播影視管理局調べ）

< 参考データ2：各都市の主な美術館の開館時間 > （森ビル調べ）

東京	西洋美術館	9:30～17:30（金～20:00）
	東京都美術館	9:00～17:00
	森美術館	10:00～22:00（火～17:00）
ニューヨーク	メトロポリタン美術館	金・土 9:30～21:00、日～木 9:30～17:30
	近代美術館（MOMA）	水～月 10:30～17:30（金～20:00）
ロンドン	ナショナル・ギャラリー	10:00～18:00（水～21:00）
パリ	ルーブル美術館	月・木・土・日 9:00～18:00、水・金 9:00～21:45
上海	上海美術館	9:00～17:00
	劉海粟美術館	9:00～16:00